

中国経済の最新動向

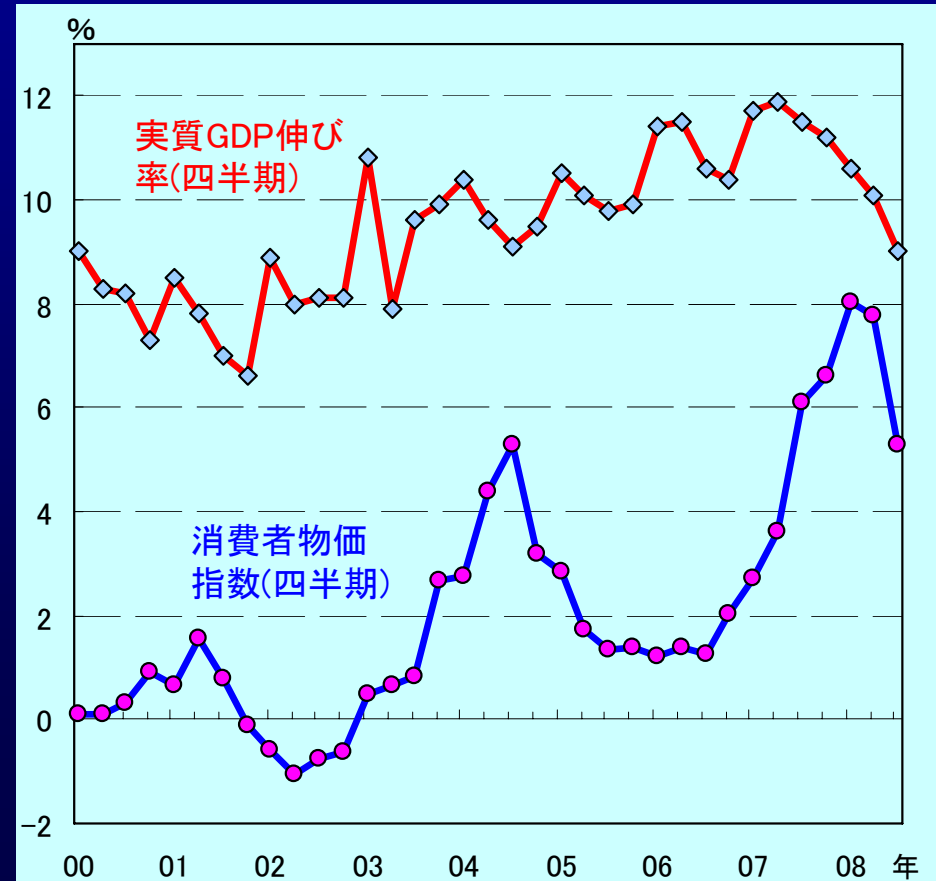
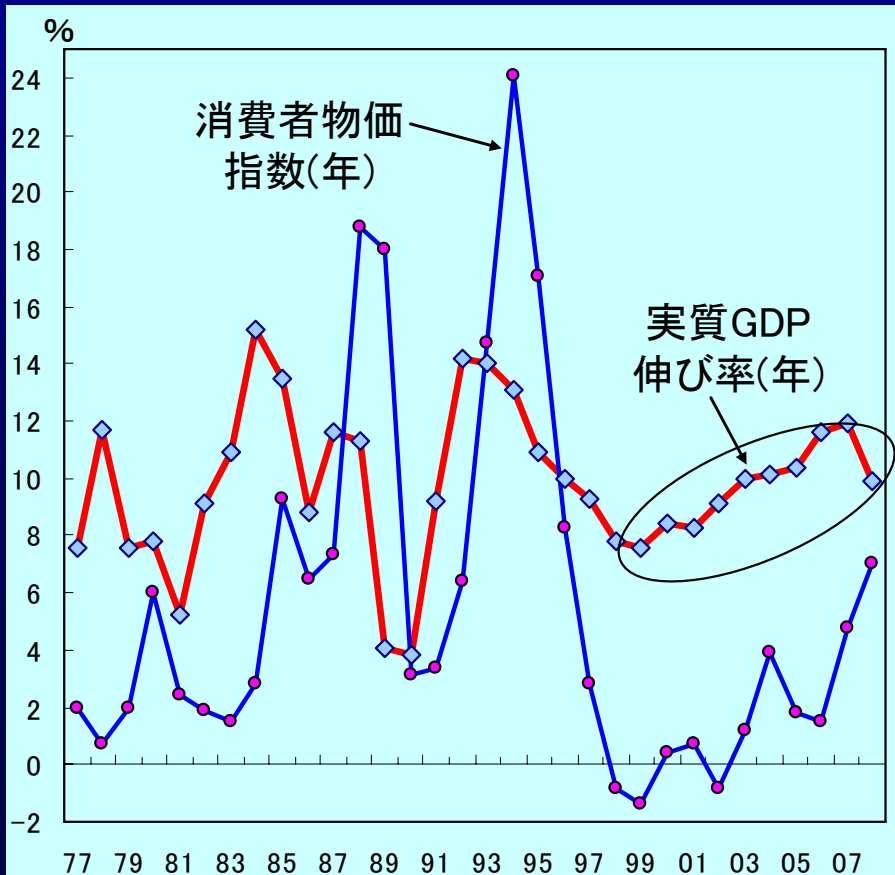
——成長の減速と金融危機の影響

富士通総研 朱炎

2008年11月6日

中国経済の景気循環

- 80年代後半以降、2回の景気調整、現在は3回目に突入
- 07年第3四半期から成長率が低下へ、08年第3四半期は9.0%
- 成長率低下の加速: 前年同期と比べて、08年第1四半期は▲1.1%、第2四半期は▲1.8%、第3四半期は▲2.5%

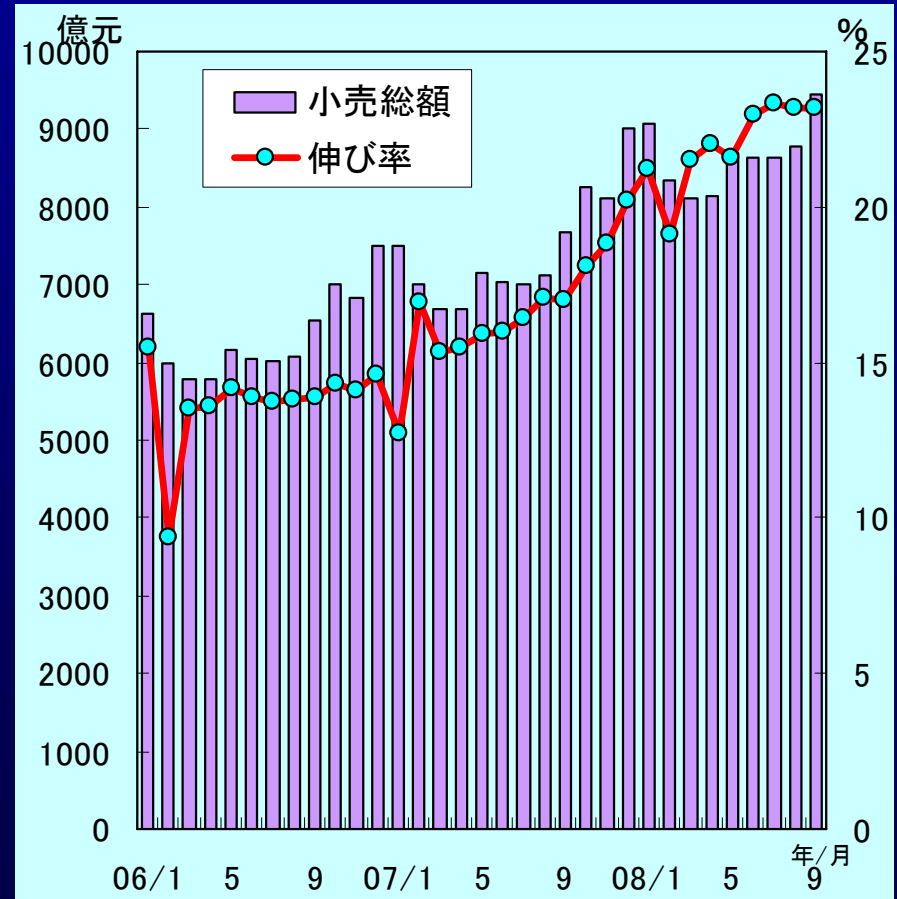
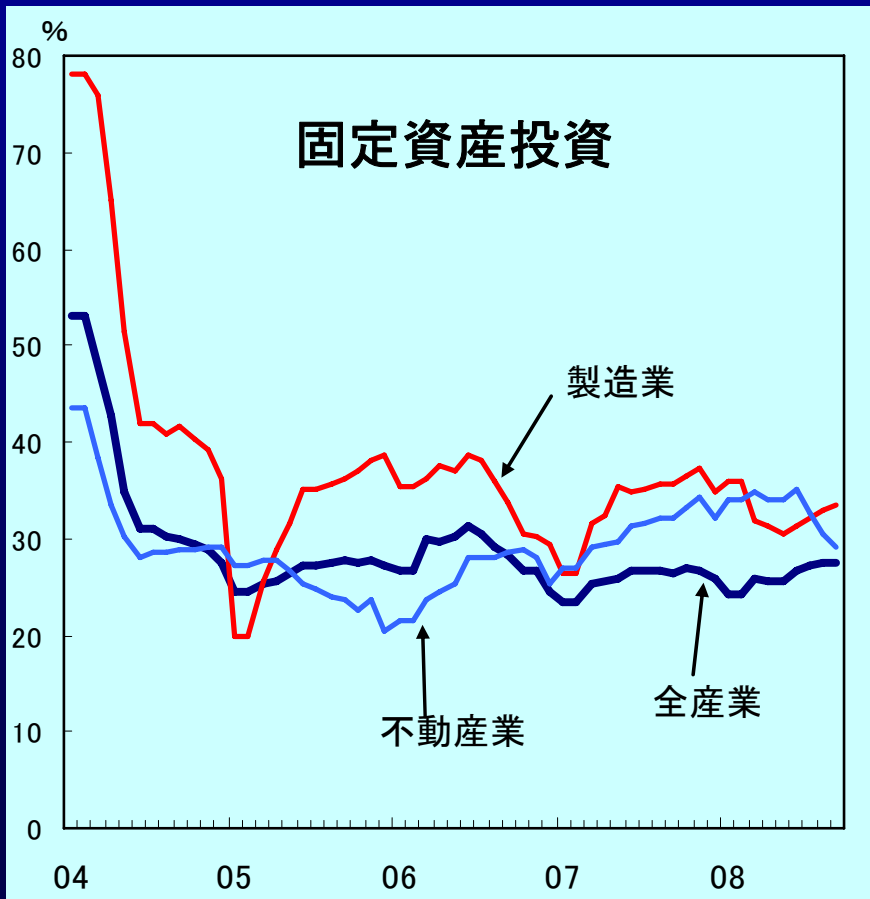


中国経済の現状

- プラス要因：依然として成長する2分野
 - 投資：依然として高成長
 - 消費：近年で最も高い、2割成長
- マイナス要因：問題がとくに深刻な分野
 - 輸出の減速：労働集約型、対米輸出は苦境
 - 企業の資金難、中小企業、輸出企業の倒産
 - 工業生産が停滞へ
 - 不動産市場の低迷
 - 株式市場の急落

投資・消費の推移

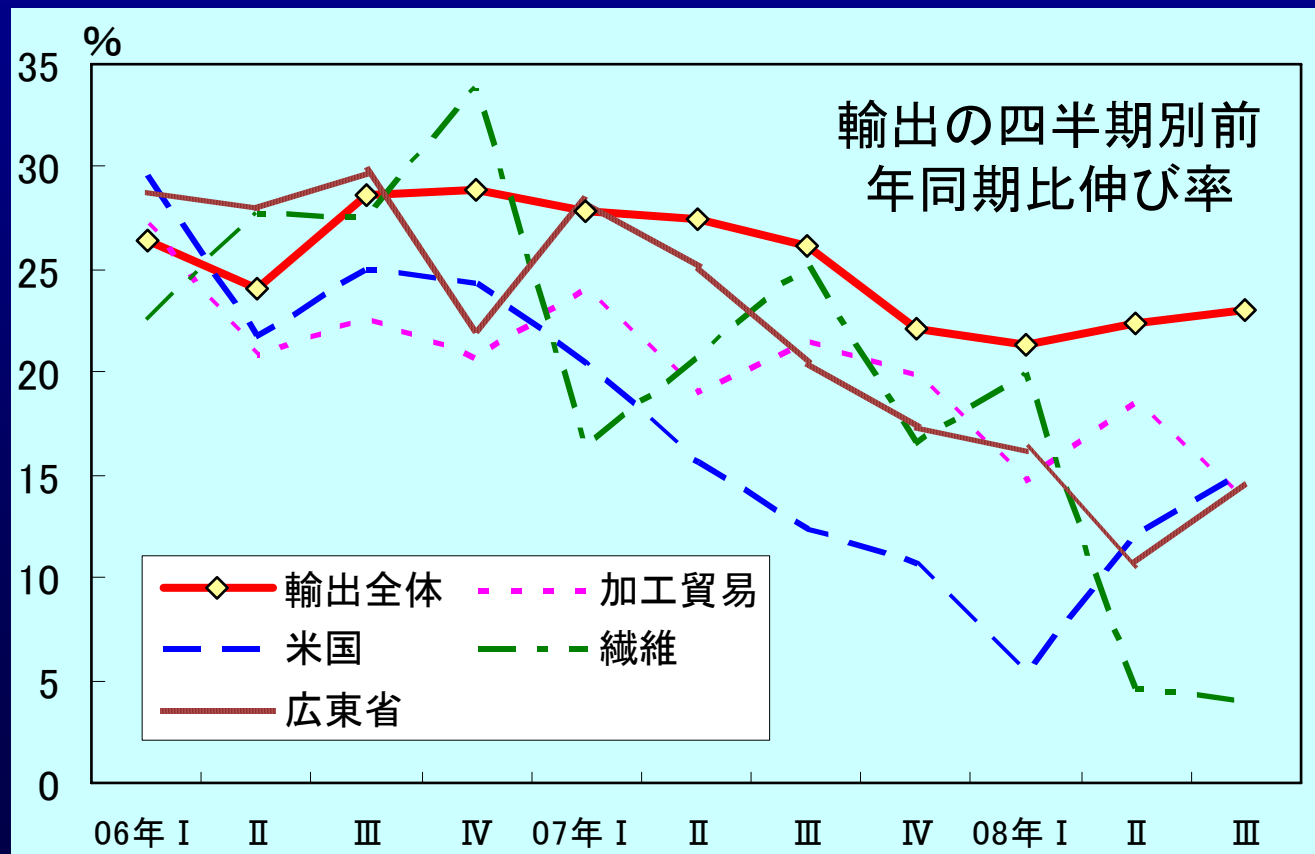
- 投資・消費の伸びは堅調、景気減速の中でも伸び率が上昇
- 投資は30～40%の伸びで推移、製造業の設備投資と不動産開発は牽引
- 消費(小売総額)は景気減速の中でも過去最高水準



注: 投資の伸び率は月別の累計額の前年同期比、小売総額は月別、伸び率は前年同月比

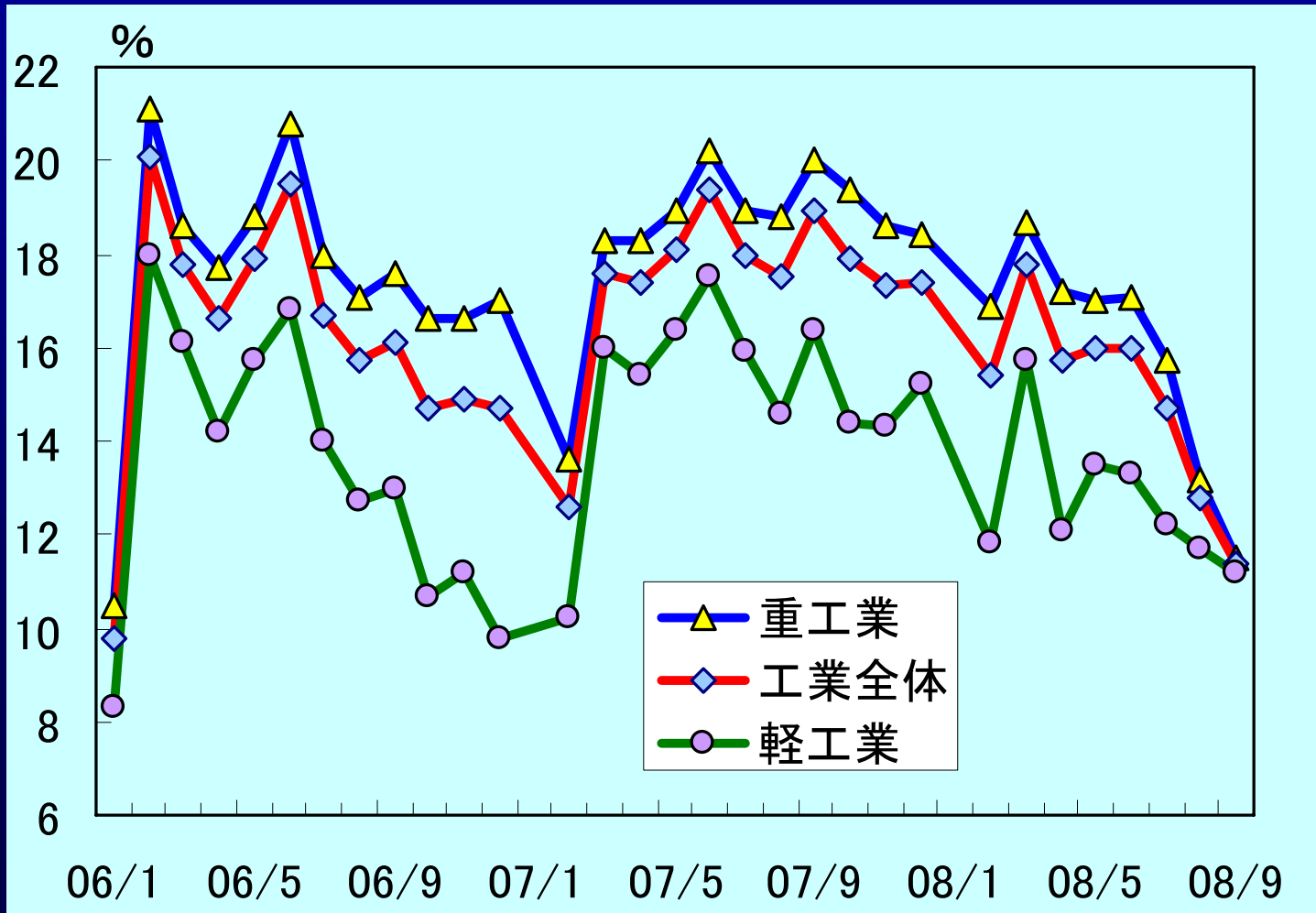
輸出の減速

- 輸出は07年から減速
- 労働集約的産業、加工貿易、中小企業の輸出は苦境に
- 最大の市場、対米輸出は不振
- 最大の輸出基地、広東省の輸出は低迷



工業生産の停滞

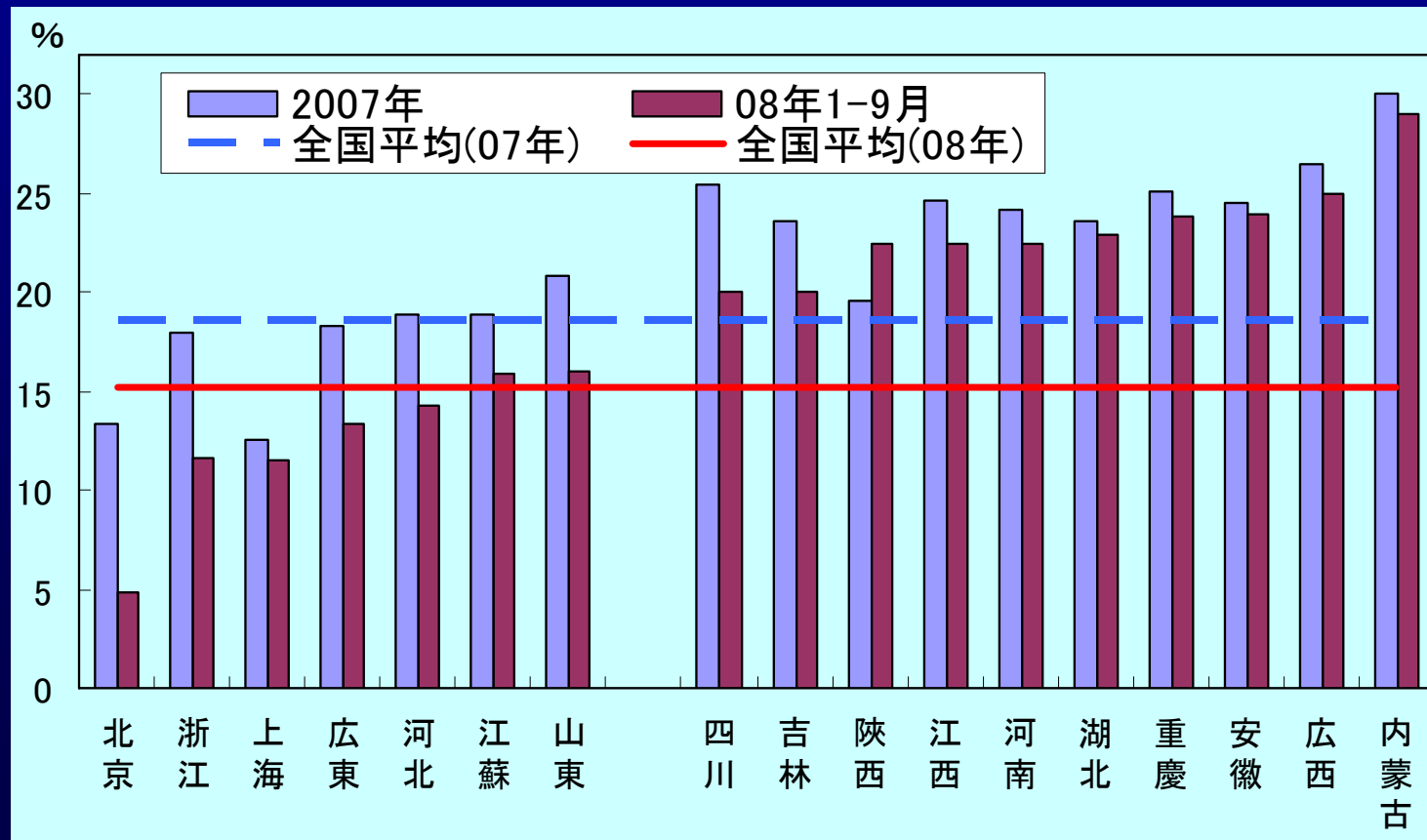
工業付加価値の前年同期比伸び率



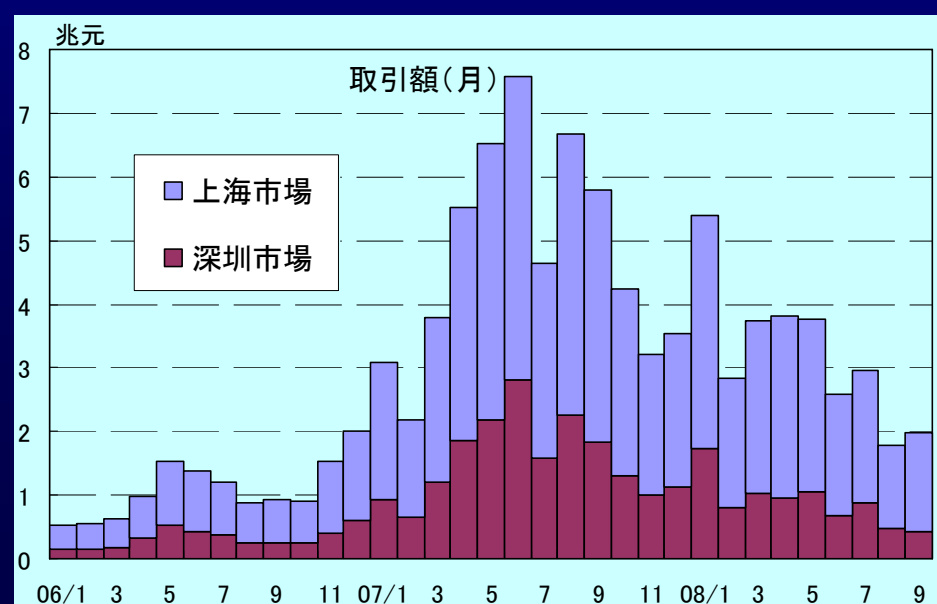
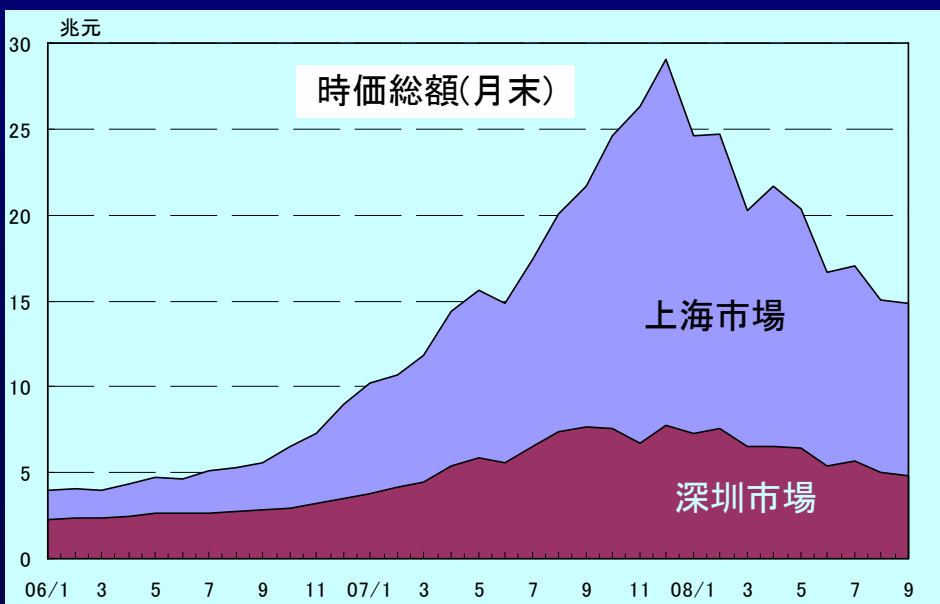
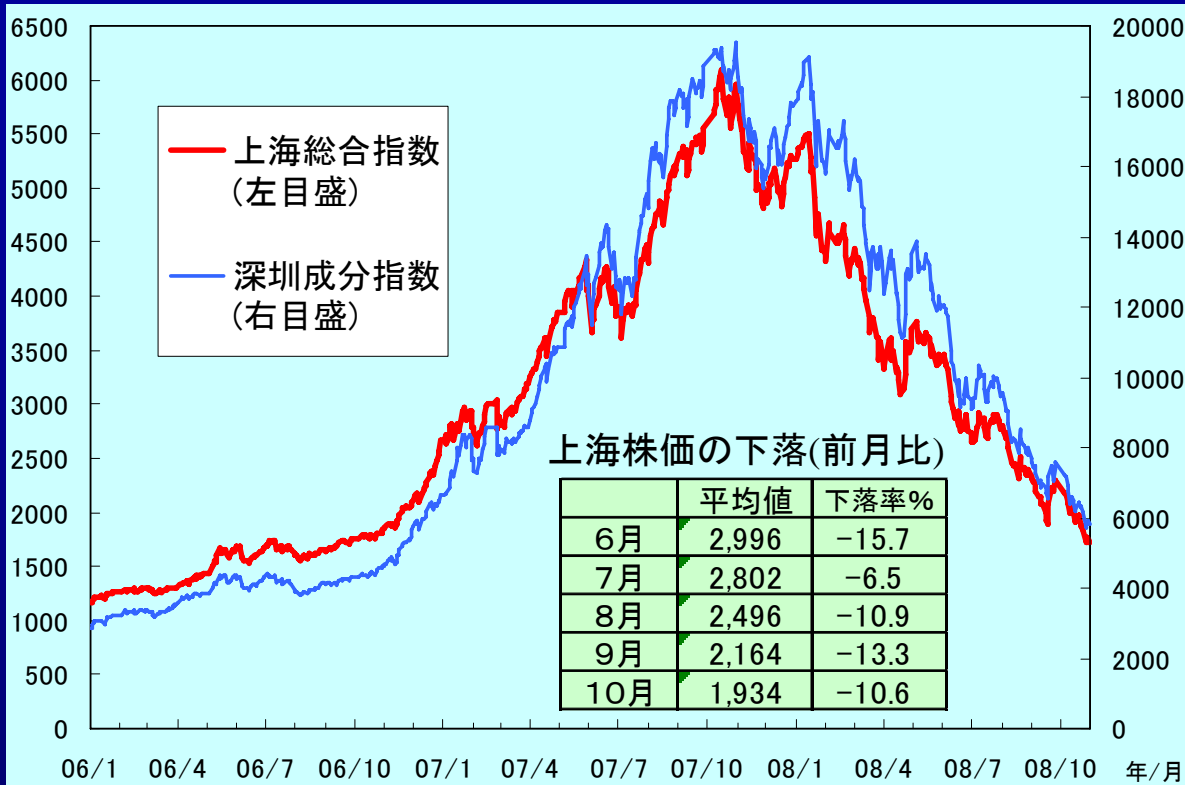
逆の地域格差

- 輸出、外資の多い沿海地域は成長が停滞
- 内需中心の内陸地域は依然として高成長

地域別工業付加価値の前年同期比伸び率

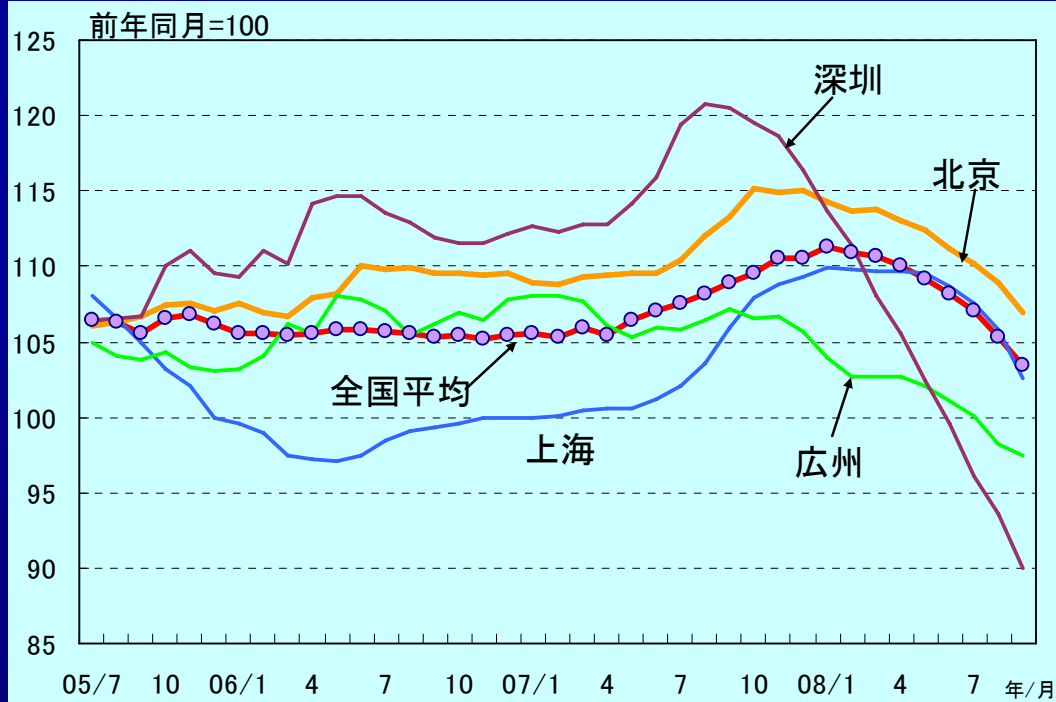


株式市場 の動向

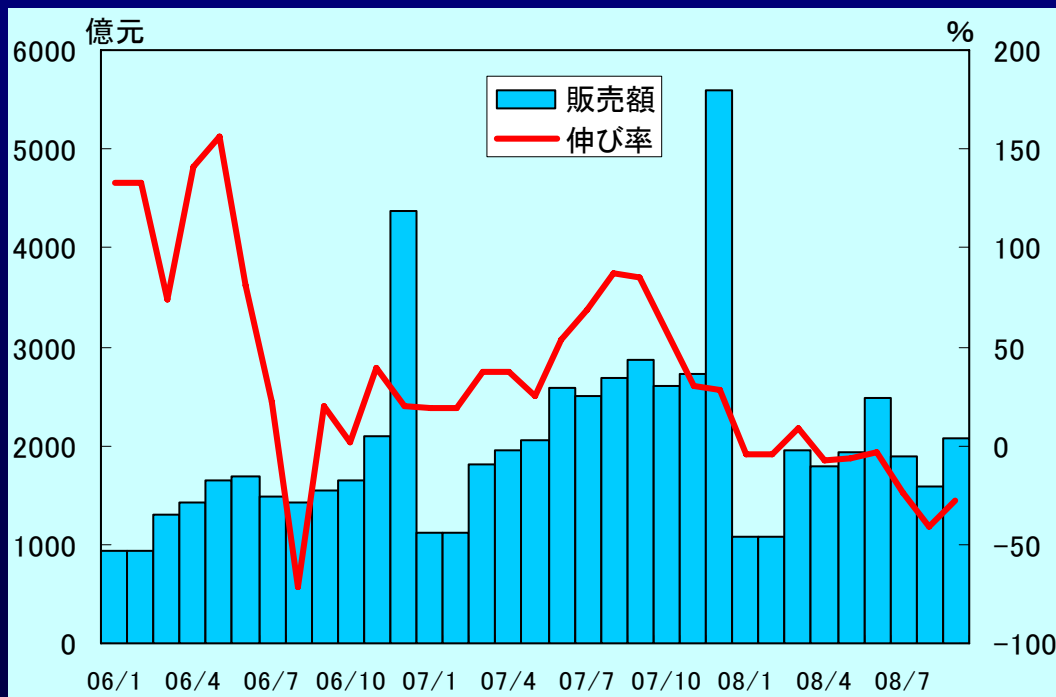


不動産市場の動き

不動産価格指数



住宅販売



経済情勢に対する政府の認識

- ① 経済に大きな問題がなく、引き締め目標に接近、正常の範囲内
- ② 問題は米国への輸出減速など、外部要因でもたらし、国内経済は正常
- ③ 昨年の引き締めなどの成長抑制のため、一連の政策措置を集中的に実施したのが問題の原因

政府の認識、政策は ① ⇒ ② ⇒ ③ へと変化

景気対策の実施

- マクロ経済政策の基本方針
 - インフレ抑制→安定成長との両立→景気刺激
- 金融政策：緩和へ
 - 9月以降3回の利下げ、2回の預金準備率の引き下げ
9月15日(▲0.27%)、10月16日(▲0.27%)、10月30日(▲0.27%)
 - 融資の総量規制を撤廃
- 中小企業支援策：融資枠の拡大
- 輸出の促進
 - 2回に分けて輸出税還付比率を引き上げ
 - 元高のペースをスローダウン、安定化へ
- 株式市場の安定化措置
 - 売買双方向に徴収する印紙税を一方向徴収に
 - 政府系ファンドによる国有銀行の株式の買い増し、国有企業は自社株買い
- 不動産市場の刺激策
 - 購入の減税、融資の緩和などで取引の活性化をはかる

金融危機の影響

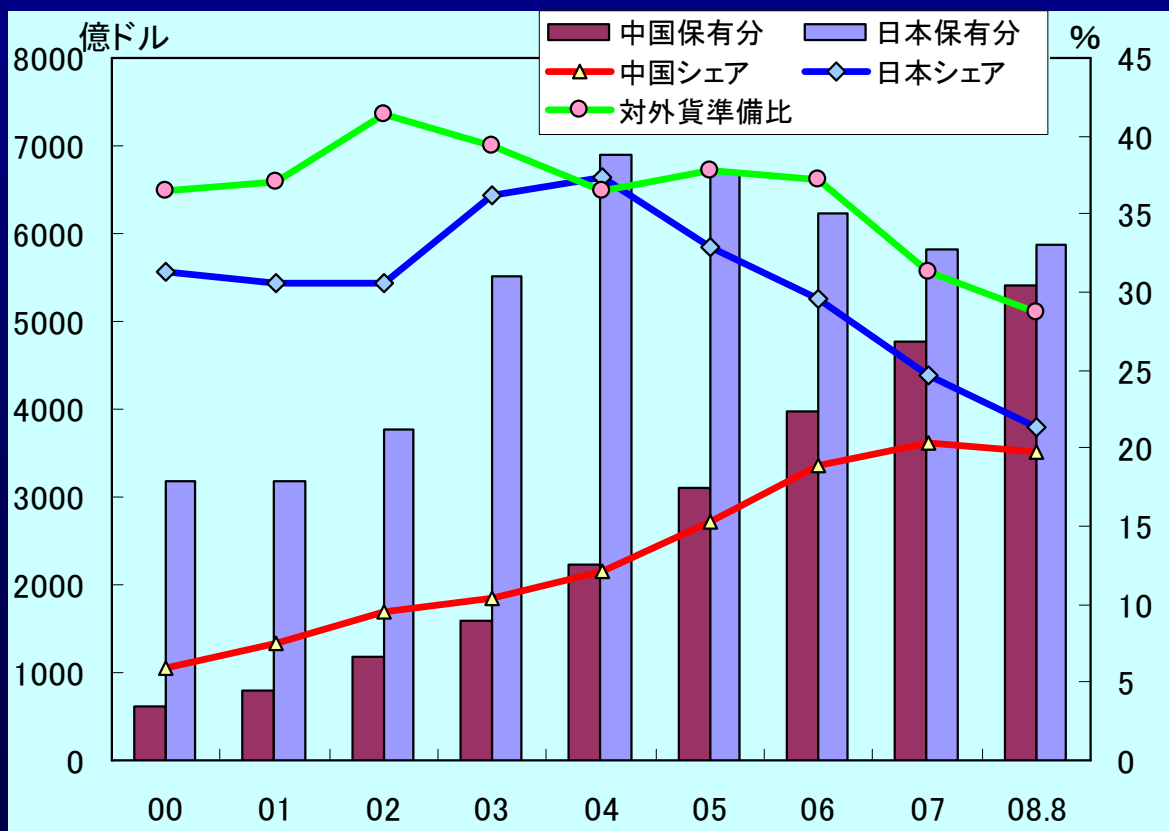
- 金融機関の損失は比較的少ない
 - 保有する米国の金融資産は約9000億ドル
- 株式市場への影響が大きい
 - 上海総合指数は1700台に下落
- 対米輸出の減速、今後対欧州も
 - 輸出の減速、もしくは減少は経済成長を脅かす

中国が保有する米国の金融資産

米国証券の保有額 (08年6月30日、億ドル)

合計	9,230
国債	4,670
準国債	3,760
長期債券	280
短期債券	230
株式	290

米国債(財務省債権)の保有状況 (期末)



金融危機への対策

- 国際協調対策に参加
 - 主要国との協調利下げを実施
 - 金融サミットへの参加
 - 米国債の保有を継続、売却せず
 - アジア諸国の金融危機対策に支援の用意
- 「抄底」(低価で買いあさり)は時期尚早
 - 米国金融機関への出資が大損
 - 米国企業の買収に乗り出すか、ブランド、販売チャネルを狙う
- 国内の経済成長を維持
 - 「中国経済の成長を維持することは、最大の国際貢献」

景気調整の行方

- 経済成長の維持に全力
 - 8%の成長を死守
 - 景気対策の追加実施:11月の「中央経済工作会議」
- 景気調整は1～2年かかる
 - 第4四半期は9%を下回り、2008年は9%半ばに
 - 2009年は8%台？